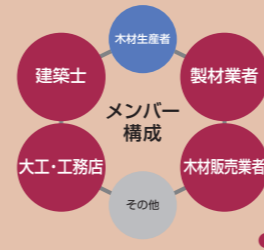


木造住宅の企画開発・技術開発に関する事業

木材使用量を5倍にする住宅工法を開発



●群馬県地域型住宅グループ

結成：平成20年

メンバー：木材生産者、製材業者、木材販売業者、大工・工務店、建築士

メンバー数：22

連絡先：TEL・027-346-0275

●中心メンバー ●構成メンバー

群馬県地域型住宅グループでは、県産材の市場拡大を促すための住宅工法や技術の開発を進めている。従来の木造住宅よりも5倍多い木材を使用した高耐久住宅とし、2～3代にわたって住宅ローンを返済できるような住宅を供給しようとしている。

2、3代にわたって住宅ローンを返済できる長持ち住宅を具体化

グループについて

群馬県地域型住宅グループは、大工・工務店、木材生産者、製材業者、木材販売業者などが参加する組織だ。群馬県産材の利用拡大を図るために、群馬北部の製材工場と高崎近郊の工務店が連携し、群馬県地域型住宅を供給していこうとしている。

そのために様々な技術開発を進めており、無垢材積層パネルや床水平構面、耐力壁などの開発を手掛けてきた。

地域木造住宅市場活性化推進事業での取り組み

群馬県地域型住宅グループでは、「どこを切っても杉、檜の家」という住宅工法の開発も進めている。木材使用量を通常の在来木造住宅の5倍にまで増やすとともに、100年～300年という耐久性を持つ住宅を具体化しようとしている。

これにより、県産材の需要拡大を図るだけでなく、2代、3代にわたって住宅ローンを返済できるような住宅の実現を目指している。

同会では、県産材の活用を活性化していくことで、「森林サイクルの正常化」を促すことができると考えている。伐採期にある木材を適切に伐採し有効に活用し、同時に計画的な植林活動などを進めていくことで、持続可能な森林経営を行うことができるというわけだ。

具体的には45mm角もしくは120mm角の無垢材を活



「どこを切っても杉、檜の家」の施工例

用した耐力面材などの構造部材を使用した住宅工法の開発を行っている。

前出の無垢材積層パネルなどの部材も、「どこを切っても杉、檜の家」住宅工法開発の一環として開発したものだ。

そのほか、床・壁パネルや耐震壁などの開発にも成功しており、モデルハウスも建設した。

このモデルハウスでは、床剛性を高めるために床材に4寸角材をパネル化し敷き詰めたほか、内部耐力壁を増強するために4寸角材をパネル化し積み上げた。

そのほか、構造用合板は使用せずに地域材を活用したクロスパネルを独自に開発し、採用した。

一方で自然エネルギーを積極的に活用し、外断熱を基本とした優れた省エネ性能を持つ構造躯体を採用するなど、環境性能の向上に向けた取り組みも行っている。



無垢材積層パネルを壁面全体に施工する



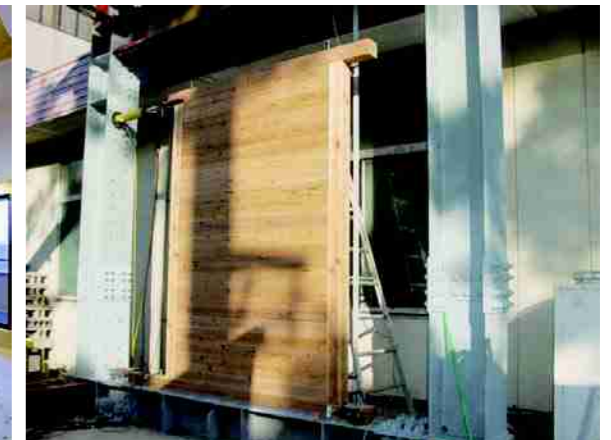
仕上げ工事を行うことなく、無垢材の積層パネルを現し仕上げにすることも可能



無垢材を活用した積層パネル



木質感溢れる室内空間を実現



実証実験などを通して積層パネルの耐震性能などを明らかに

事業によって得られた成果

●他の住宅との差別化につながる

群馬県地域型住宅グループによると、モデルハウスへの来場者は、平成22年8月30日までで約230人に達している。また、2棟の受注を獲得、モデルハウスを建設したことの効果を実感しているという。

また、「最近の住宅については、品質レベルも見た目も同じようなものが多い。そのなかで、展示住宅を公開することで、他の木造住宅の差別点をはっきりと示すことができた」としている。

同会では、プレカット材の普及などに伴い、地域の工務店が明確な差別化戦略を打ち出すことが難し

くなってきていると考えており、その意味からも地域産材を活用した特色ある住宅を供給することで、地域経済の活性化につながっていくのではないかと見ている。

今後、グループ全体で年間90棟の地域型住宅を供給することを目標として掲げている。

同会では、技能者の育成なども行っており、無垢積層パネル工法の現場施工研修や構造躯体知識研究会など開催した。平成21年度は15人の技術者が研修会などに参加した。